

国際会長エバハルト・J ヴィルブイスの福岡

ミネアポリス国際大会の壇上でLブランデルからIPのバトンタッチをされたあの日からあまり経っていないのに、福岡空港に降り立ったのは国際会長のLヴィルブイスでした。

3日間の帯同取材を国際理事L不老より指示され、337複合IT特別専門委員として直ちに始動を開始しました。福岡市内のライオンズクラブより役員をはじめ、福岡桜LC、福岡花LCの華やかなメンバーも空港に出迎えていました。到着するや花束の贈呈です。

その後、昼食を福岡ホテルニッコーのブッフエスタイルで軽く済ませ、ホテルの控え室で少し休息を取られました。最初の公式訪問は福岡県庁。麻生渡県知事との会談はリラックスした雰囲気の中で行われました。国際会長はライオンズクラブの国際的な奉仕活動に触れられ、とくに世界中で日本のライオンズクラブの活動が一番であることを強調して話されていました。しかし、日本のライオンズクラブは謙遜しているのか自己アピールが下手なうえにPR不足なので行政の力をお借りして応援をして頂けないだろうかということ時間を割いてお話されていました。知事もライオンズクラブが控えめなことを十分承知していましたが2012年に招致が決定しているアジアフォーラムについての話になると、とても嬉しそうになり大いに期待している様子でした。次の訪問先の西日本新聞社の役員の皆様との対談でも、やはりこの話題になりました。

広報の苦手な日本のライオンズクラブは謙遜を美德としている日本人の体質なんだろうが、時代にあったアピールをしなければならないと思い知らされました。公式訪問を終えられて、少しの休息を採った後、福岡桜LCのメンバーの“三光園”で和食での夕食会が開かれました。会席の途中で用意されていた“きもの”がエバハルトの奥様に着付けられ、はじめて着た和服姿を大変喜ばれていました。宿泊先の福岡ホテル・オオタニでは後深夜まで資料の説明や作業の手順などの確認に追われていたようでした。

翌日のセミナーには西日本各地から数多くのライオンズメンバーが駆けつけられ会場が暑くなるほどでした。セミナーには会員増強のためにしなければならない数多くの貴重なお話がありました。増殖し続ける銀杏の種のお話などを交えながら成長するためには今始めなければならない行動を起こそうとセミナーを力強く締めくくりました。会議ののち部屋が歓迎晩餐会会場となり西日本の議長の皆様と夕食をともにしました。多くの優れたライオンには国際会長からピンやバナーそしてメダル・賞状などが贈られていました。

翌日、国際会長の皆様は大宰府に参拝され賽銭を投げ入れ、神妙な顔つきで手を合わせていました。当然の質問でしたが参拝の理由と賽銭への疑問に、幸運の願いを聞き届けて下さる素晴らしい神様です。と答えていたようです。阿修羅観音で混雑している国立九州博物館にも常設館を見学し、日本の古い伝統ある数多くの文化財に驚き、感嘆とため息を漏らしていました。お昼に着いた“大丸別荘”で九州では最後の食事を頂き、食後には究極の裸の付き合いといえる日本式露天風呂に国際理事L不老とご一緒に入浴されました。

そして福岡空港よりL不老夫妻L杉本夫妻とともに札幌の第2会場に飛び立たれました。



